opusdei.org

人間の尊厳と緩和ケ ア

特定非営利活動法人びゅうは、2009年10月25日の午後、大原文化センター(芦屋市)にて、「いのちと死を見つめて:人間の尊厳を考える」というテーマでシンポジウムを開催しました。

2009/11/25

特定非営利活動法人びゅうは、2009 年10月25日の午後、大原文化セン ター(芦屋市)にて、「いのちと死 を見つめて:人間の尊厳を考える」 というテーマでシンポジウムを開催 しました。

パネリストには、東神戸病院緩和ケ ア病棟長の大西和雄先生、同看護師 長の長岡理恵子先生、京都国立病院 麻酔科医師としてご活躍後、現在、 静岡市で海の星診療所を開業なさっ ておられる小林敏信先生、オプスデ イ属人区の司祭、酒井俊弘師をお迎 えしました。

大西和雄先生は、緩和ケアの基本主は、緩和ケアの基本をお話ししてくださり、ターち続きで希望を持ちるまで希望を大切さに触れているとのとのとのとのとのとのといるといるとがあるといるというできるようでは、と安全性だけのはいるとのできるとのできるとのもらっこと。医療者の物的・心

理的援助とともに、ボランティアが 提供する様々なサービスは、患者と その家族に大きな貢献をしていると いうことを話してくださいました。

最後に、酒井俊弘神父様は、ターミナル・ケアには、身体的ケアと社会的ケア、そしてスピリチュアルケアと宗教的ケアが必要であると話されました。スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違点については、前者は

患者の精神的負担を軽くするための 聴き相手になること、後者は死後に ついての患者の質問に答えを提供す ることであると説明してくださいま した。また、私たちはお互いにこの 4つのケアを必要としており、私た ちは、言わば、日常生活でのホスピ ス状態にいる というコメントが印象 的でした。

豊かな経験に基づいた先生方のお話しに、参加者は深い感銘を受け、の生き方を振り返し伸答を表しているののとうにきるがというととなります。 できるかとい機会をはっている。また、成立したとい機速ボラがあったといりできるがは、そのはでというのは、ことを対するの実があるとしましてはないます。 れていくことを期待しています。

芦屋、2009年11月16日

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/ren-jian-nozun-yan-tohuan-he-kea/(2025/12/16)